

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2023年9月

事業所名

放課後等デイサービス虹の丘

	チェック項目	実数			割合	
		はい	いいえ	合計	■ はい	■ いいえ
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	8	0	8	100%	0%
	2 職員の配置数は適切であるか	7	1	8	88%	13%
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	7	1	8	88%	13%
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	8	0	8	100%	0%
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	8	0	8	100%	0%
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	8	0	8	100%	0%
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3	5	8	38%	63%
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	8	0	8	100%	0%
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	8	0	8	100%	0%
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	7	1	8	88%	13%
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	8	0	8	100%	0%
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	8	0	8	100%	0%
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	8	0	8	100%	0%
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	8	0	8	100%	0%
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	8	0	8	100%	0%
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	8	0	8	100%	0%
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	8	0	8	100%	0%
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	8	0	8	100%	0%
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	7	0	7	100%	0%
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	8	0	8	100%	0%	

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	8	0	8	100%	0%
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	2	5	7	29%	71%
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	8	0	8	100%	0%
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	8	0	8	100%	0%
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	8	0	8	100%	0%
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	6	8	25%	75%
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	7	0	7	100%	0%
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	8	0	8	100%	0%
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	8	0	8	100%	0%
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	8	0	8	100%	0%
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	8	0	8	100%	0%
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	7	1	8	88%	13%
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	8	0	8	100%	0%
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	8	0	8	100%	0%
	35	個人情報に十分注意しているか	8	0	8	100%	0%
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	8	0	8	100%	0%
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	4	4	8	50%	50%
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	8	0	8	100%	0%
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	8	0	8	100%	0%
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	8	0	8	100%	0%
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	8	0	8	100%	0%
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	8	0	8	100%	0%
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	8	0	8	100%	0%

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2023年9月

事業所名 放課後等デイサービス虹の丘

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	支援室の他に学習室やパーティションの空間があり、遊び内容や個々の様子に合わせて使い分けている。	ブランコ等大きな遊具を使用している際、スペースの確保が難しく感じる。外の広場も生かして静の遊び動の遊びが十分にできるスペースを確保できるよう工夫していく。
	2	職員の配置数は適切であるか	利用人数に合わせて職員を配置するよう心がけている。	個別サポート加算の利用者さんが多く、1人1人に手厚い支援をしたいのにできないと感ずることがある。職員で声を掛け合い、全員に手厚い支援ができるよう心がけている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	フラットな作りになっており、学習室には防音材を敷き詰め静かな空間を作る等している。	学習室入口のみ小さな段差があるが、現在は困っていない。今後必要となればスロープをつけるよう工夫する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	支援会議や毎日の朝礼を行い、支援の反省や活動内容等を話し合っている。	学休日は放課後利用の日より会議・申し送りの時間がとれないため、メールでの情報共有も活用して全体に周知している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	定期的に保護者にアンケートを実施し業務改善に努めている。	保護者の方にもホームページを見て頂けるよう伝えていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	定期的実施し、ホームページにて集計公開。	保護者アンケート同様、保護者の方にもホームページを見ていただけるよう伝えていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	コロナ禍で出来ていない状態が続いているが、いつでも評価を行ってもらえる状態にしている。	今後評価を受け、改善に繋げたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	虐待防止研修をはじめ様々な研修に参加したり、独自の研修も行い質を上げることを大切にしている。	地域主催の研修も情報を流すようにしているため、積極的に参加することで個々の質を高めていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	アセスメントからニーズを拾い支援・計画を作成している。こちらから話してしまうのではなく、保護者の方のお話しをお聞きすることを大切に	職員に周知する必要がある内容は場合は必ず伝え、全員が共通理解できるようにしていく。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	指定のアセスメントツールを使用している。	アセスメントツールを利用するだけでなく、個々に合わせながら適切に図れるよう丁寧に行っていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	全職員が案を持ち寄って話し合いながら立案することで、より良い活動プログラムを計画。	内容によって継続していくものと変化していくものを工夫して立案していく。また、子どもたちの姿を丁寧につかみとりながら目的を定めて計画する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	活動目的を「運動・感覚・制作・自然・集団・地域交流」に分類し、ランダムに組み込むようにしている。	利用者さんの成長により興味のある活動も日々変わっている。楽しみに参加できるような内容を計画していきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	利用者記録を記入し、それを基にその子を理解しながら課題をきめ細やかに設定している。又それぞれの利用形態に合わせたプログラムを計画し	支援計画を基に支援にあたるだけでなく、日頃から利用者さんの行動の要因を把握し、一人ひとりに合わせた支援を全職員が行えるように努めていきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	子どもの発育に合わせて、全職員で話し合っ計画している。	集団の場ではあるが、集団への不安感や過ごし方は1人1人違う。個々の子にとって安心して過ごせる居場所となるよう環境を工夫していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	毎日朝礼を行い、支援の内容や活動・ヒヤリハット等を全職員が確認できるようにしている。	打ち合わせの時間を有効に使い、全職員で意見を出し合うことで、支援の質を高めていきたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	その日の出来事や気になったことは、すぐに共有・相談するよう心がけている。	翌日の朝礼にてより丁寧に行っているため、当日中に共有すべきことと翌日に振り返ることをよく判断していきたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	自分で記録するだけでなく、周りの職員と情報共有し合っ記録している。	全職員の視点を合わせながら、子どもたちの裏の思いまで記録することを今後も努めていきたい。

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	モニタリングで利用者の状況等共有している。	今後も支援会議を重点に置き、個に応じた成長を見極め、計画作成を丁寧に行いたい。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	必ず目を通す機会を設け、再確認できるようにしている。	全職員が理解して支援に望めるよう、今後も再確認する機会を設けていく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	管理者兼児童発達支援管理責任者が参加している。	必要な情報を全職員に伝達するよう心掛けている。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	送迎時に利用日の確認をするだけでなく、変更や気になったことがあった際にはFAX・電話を使って連絡を入れている	より良い支援ができるよう情報共有を細目に行い、学校との連携を大切にしていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	現時点で医療的ケア児の利用はない。	今後、医療的ケアが必要な子どもを受け入れることがある場合に備えて、準備を整えておく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	新しく利用される時には、その子が利用している児童発達支援事業所に出向き様子を見たり、先生方と話をしている	今後も就学前の様子を丁寧に聞き取って支援にあたるよう、連携を大切にしていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	ケース会議を行ったり、情報を提供するなどして、スムーズに移行できるように配慮した。	先の進路に不安や心配を抱えていらっしゃる声をよく聞くため、就労支援施設や相談支援センター等、他機関と繋がる見学会や座談会を開催している。今後も輪を広げたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	地区で開かれる研修に積極的に参加している。	参加できなかった職員にも学んだ内容が行きわたるよう、研修報告の作成をしていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	公共施設を利用し地域の方がいる場に出て行っている。	児童館や学童との交流は知らない人と出会うことが苦しい子どもも多く行っていない。今後も、子どもたちに無理のない範囲で公共施設や公共交通機関を利用するような活動を入れていく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	児童部会等毎回参加している。	必要な情報を職員に伝え、地域の施設としての心構えができるように努めている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	連絡帳や送迎時だけでなく、子どもの様子・変化等電話やメールも使って共有するようにしている	お話しした内容を共有し合い、支援の振り返り・改善に繋げることで、子どもたち・保護者の皆様に安心して利用していただける居場所でありたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	研修として行っていないが、個々に相談を受けながら子育てに関する助言を行っている。	丘カフェや外部講師を招いての座談会の場も活用し、より多くの保護者様のご意見・ご相談を聞き取りたい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	契約時等細かい所まで丁寧に伝えている。	契約時に関わらず、ご不明なことがあればその都度説明する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	その都度電話やメール等ですぐに対応できるようにし必要であれば、直接お話し出来るように機会を作っている。	利用されているお子様だけでなく、兄弟など家族全体の悩みもお聞きし、保護者の方の思いに寄り添えるようにしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	丘caféを行い保護者の方が顔を合わせる時間を作っている	新型コロナウイルス感染症が5類となったことで参加者が増えている。参加されなかったことがない保護者の方にもお声がけしたり開催日時を工夫したりすることで、より参加しやすいようにしたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	トラブルが起きた時にはその状況や解決方法など、すぐにお伝えするようにしている。	職員で話し合い原因を追求し解決策を考えると共に、同じトラブルがないよう努め、安心して通っていただけるようにしたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	本社より各保護者に向けて送られている。また虹の丘独自の「丘新聞」も発行している。	行事の日程やお知らせ事項に限らず、活動の様子も載せることで、虹の丘での子どもたちの様子を感じていただける内容にしたい。
	35	個人情報に十分注意しているか	保管庫に入れ、十分に注意している。	不要になった個人情報はすぐに処理する。今後も個人情報には十分に気を付けていく。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	絵や文字・言葉など個々に合わせてより伝わりやすい伝達方法に配慮している。	子どもたちの思いに寄り添うことを大切にすることで、表情や発する言葉から気持ちをくみ取ろうと努力することを全職員が大切にしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	ボランティアさんを招いての活動をしたり地域の活動に参加したりすることで、地域との繋がりを大切にしている。	現在新型コロナウイルス感染症の影響により、地域との交流が薄くなってしまったため、今後機会を設けていきたい。

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	マニュアルは施設内の壁に貼る等誰が見ても情報を得やすいようにしている	年に一度マニュアルを見直すことで、常に新しい対応ができるよう努めていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	土砂災害、火災、地震を想定した訓練を毎年行っている。	地域の消防署にお願いし火災時の訓練を受けている。今後も続けていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	虐待防止研修は、全職員必須で研修を受けている。	研修レポートを書いて振り返るだけでなく、他の職員と話し合ったり伝達したりする機会を作ることで、全員で虐待防止の意識を深めたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	契約時に説明している。	契約時に限らず、必要が出てきたときは、説明責任を果たし支援計画に記載する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	保護者から必要な対応について細かに教えて頂き全職員で共有する。	異動職員や新人職員等どの職員も同じ対応ができるよう徹底する。保護者との面談も行い、より安心して利用して頂けるよう努めていきたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	毎日記入し、改善策を考えている。事例によっては出勤者以外にも伝わるようにしている。	ヒヤリハットを全体的に振り返ることで、危険性が高い時間帯や場面を掴み、今後の支援に繋げる。